

滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和6年度 第1回)

○日 時 令和6年7月12日(金)10:00~12:00

○場 所 滋賀県危機管理センター 1階 災害対策室 (オンライン会議併用)

○出席委員 河岸委員(部会長)、鈴木委員(副部会長)、後藤委員、東委員、山岡委員、中村委員、山委員
築地委員、安原委員

○オブザーバー 大津市 【井上氏代理】西村氏、長浜市 田中氏、草津市 木村氏

○同席 滋賀県介護福祉士会 村田事務局長、長浜市 橋本氏

○議 題

- (1) 市町と連携した小中学校生への魅力発信について
 - ・中学校への出前講座の普及と市町の取組状況
 - ・長浜市、大津市、草津市「中学校への出前講座」情報提供
- (2) 令和6年度介護のしごと魅力発信事業について
 - ・これまでの経緯
 - ・事業実施の経過報告
 - ・大津市「おおつ介護フェスタ」情報提供
- (3) その他

・ 議題(1) 市町と連携した小中学校生への魅力発信について

※資料3により事務局から説明

【オブザーバー長浜市】

※資料3 P.5により長浜市から説明

- 中学生を対象とした介護出前授業と介護体験について、長浜市では福祉や介護の仕事に対する中学生の理解を深め、より身近なものとして介護への関心を高めてもらうために、介護サービス事業所と連携して学校に出向いて具体的な仕事内容や、やりがいについて話す出前授業を、介護の事業所で介護体験を実施している。
- 出前授業については、介護サービス事業所の職員が講師として中学校に出向き授業を行っている。
- 内容は、講義や車いす、高齢者疑似体験等、学校の希望を伺って決定をしている。
- 講師は、社会福祉法人青祥会に依頼し、謝礼を支払っている。
- 令和5年度の取組状況は、年度当初に校長会で事業説明、教育委員会を通じ各校に事業の周知を行っている。
- 希望される中学校から介護保険課に申し込みがあったら、中学校と講師と介護保険課で日程調整と内容の打ち合わせを行い、出前授業を実施するという流れになっている。
- 昨年度は2校で実施した。
- 介護体験は、中学校の方で職場体験などの授業をするので、その一環として中学生が介護施設に出向いて実際に体験学習を行うものである。
- 令和5年度の取り組み状況については、前年度中に体験学習の受け入れ可能施設を募集し、一覧表を作成したので、先ほどの出前授業とあわせ、年度当初の校長会で説明をして事業の周知を行う。
- 一覧表を元に中学校から各施設へ申し込みがあり、体験学習を実施いただいているという流れになっている。
- 実績としては、昨年度は6校で19名が参加している

- 長浜市では平成 28 年度から出前授業を実施しており、これまでの実績の実施校数については、コロナ等もあり、実施がなかった年もあり、多い年で大体 4 校程度で 3 分の 1 ほどの学校に利用してもらっている年もある。
- 昨年度実施した出前講座の詳細については、2 校で実施しており、時期は 1 学期 7 月、2 学期 11 月に 2 年生を対象に実施した。
- 長浜北中学校については、中学校で実施される職場体験の前に学年集会があり、その中で介護の仕事内容や魅力について講義をしている。
- 湖北中学校については、家庭科の授業で、中学校の学習指導要領が改訂され、介護など高齢者との関わり方について学ぶという単元が家庭科とか技術であるので、その一環として、高齢者の特徴について学ぶ講義とか体験学習を実施している。
- 次に昨年度実施したアンケートの結果の一部を抜粋しており、「あなたの家族など身近に介護を必要とする人がいますか」という内容に対して、およそ 6 割の生徒がいないとの回答であった。
- 核家族化が進んでおり、身近に高齢者と触れ合う機会は、このアンケートからも減っている様子が伺える。
- 「授業を受ける前後で介護に対するイメージはどうでしたか」という質問に対しては、「夜勤などがあり仕事がきつそう」というイメージが、受ける前は多かったのに対し、受けた後については、逆に「やりがいのある仕事」、「職場の雰囲気が良さそうだ」、「自分自身も成長できる仕事」が、大きく伸びている。
- 実施直後ということもあるが、出前授業を実施することで、介護に対するポジティブな印象をもらっている機会になっていると感じている。
- 長浜市としては実施校が少ないので今後はもう少し増やしていけるように取り組みを進めていければと考えている。

【オプザバー大津市】

※資料3 P.10 により大津市から説明

- 令和4年度より事業に着手し、長浜市同様、家庭科の授業で「高齢者理解」のカリキュラムに盛り込まれたことを契機に、学校で使用してもらえるような事が出来ないのかと検討を始めた経過がある。
- P.10(2)令和5年度の取組状況に手順の記載をしていて、窓口は学校教育課となり、どのような取組みをしていくのか協議する。
- 令和4年度の終わりに校長会で事業内容を説明し、令和5年度4月に学校教育課を通じ教育委員会から各学校と結ぶメールを活用し、情報提供をしてもらっている。(学校単位)
- 家庭科の授業をターゲットとしたくて、技術・家庭科の部会の会長に相談したり、5月の部会でPR させてもらったりしている。
- 実際の申込みは、中学校から教育委員会の学校教育課に届き、その情報が当室に届き、スタートになる。
- 依頼を受けたのち、講師選定は社会福祉協議会施設連絡会に依頼している。地域性を加味し、近くの事業所で講師を決定してもらっている
- 講師の決定後、学校と講師と当室と時間が合えば社会福祉協議会に来てもらい、四者で 1～2 回打ち合わせし、当日を迎える。
- P.11 実施状況については、令和 4 年度はモデル実施で、2 校でスタートしている
- 形式はクラス単位で家庭科の授業や学年集会形式で総合学習の時間を活用されている。学校の希望に応じているので、色々な形式となっている。
- 令和5年度は本格実施で、希望があった学校4校で実施した。学校の規模等はバラバラで色々な形式で実施している。P.12 高齢者理解や人権的なニュアンスを主としている学校がある。
- 副産物として講師をする施設側にメリットがあることがわかり、是非講師をさせてほしいとリクエストがあるくらいである。施設側が出前講座の内容を検討することにより、職種を超えてのコミュニケーション

が活性化したり自らの業務を見つめ直す機会に繋がった等、事業所側がものすごく力を入れて実施してくれることは、当室も狙っていなかった。思わぬところで、新たに効果が出てきている。

- 今後の方向性は、令和6年度も引き続き事業を続けており、P.13、14 が今年度学校に配った資料である。
- これまでの技術家庭科部会の先生等と話をし、何をどうすれば授業に使いやすいか検討してきて、「ご希望に応じて市がコーディネートします」と「講師謝礼など学校での費用負担は不要です」をうたってきているが、学校の先生方は多忙のなか、このような事業の講師謝礼の準備等の事務的なことが大変という事で、例えば事業所との調整を自分たちが行わないといけない、車いすを1台使用するにも社会福祉協議会が貸してくれるが直接申込をすると、実施日前後に準備と後片付けに必要となり3日は取られてしまう。こういった希望を大津市に言えば、全てコーディネートするという事を強く言い、担当者は汗をかきながら大変ではあるが、学校側の負担を減らし、希望に近いものを提供するところを売りにしている。
- 社会福祉協議会と話をしていく中で、イメージがつけばということで P.14 のとおり、今年初めて、講座メニューを掲載した。当初はメニューを固定しようと思ったが、やはり学校によって様々な希望があるので組み合わせを自由にできるよう仕掛けをしていこうと始めている。
- P.13 に QR コードを添付しているが大津市のホームページでも最新の情報を提供している。写真を動画に仕立てたものを大津市の公式 YOUTUBE でも PR し、他校の先生や保護者に見ていただいて理解が進めばいいと考えている。
- 校長会で説明会をしたが、今年度実施にあたり教育委員会と相談したところ、校長会で相談するのもいいが、校長先生も異動されるという事もあり、学校で受け継がれにくいところもあり省略した。いきなり4月当初に通知するつもりで考えている。

【オブザーバー草津市】

※資料3 P.15 により草津市から説明

- 当市は令和5年11月2日に、初めて校長会で説明したという状況である。校長会での説明にあたり、他市も言っていたが、学校にとってもメリットになる魅力発信でなければ受け入れてもらうことは難しいであろうという事を念頭に置きながら、話をしていくという方針で校長会に向かった。
- 校長会の中で事前に学校の先生から個別に話を聞き、今、教育の世界ではESDと言って教育版SDGsのようなものが入り入れられ、その中でどのような事をするか、メニューが固まらずに悩んでいる先生方が多いと聞き、この部分に深く入り込めないかという事で、草津市を是非利用してくださいという意味合いで話をした。
- 行政に長くいると、教育委員会を動かす事は容易でなく、お願いして無反応の繰り返しであったので、今回はそのようにならないように、どうすれば良いかを考え、困っている事を一緒に解決させてください、という姿勢を見せた。市としては魅力発信をしたいということであり、その場で(介護職に)勧誘することは無いと、誤解されないよう注意を払った。校長会の最後には、また草津市から連絡すると伝え、ボールがこちらにある状態で校長会を終わらせてもらった。
- 結果、1校の校長先生から学年イベントの中で介護体験のようなものを他の団体に依頼しているので一度見に来てくれないかと言われ、11月下旬に南部介護サービス事業者協議会の役員方と見に行き、活用可能という意見があった。1学年に対し時間は半日でどのような内容にしていこうという作業が始まり、素案の段階でP16,17の内容になる。ここに上げている段階では、思い付きを羅列したにすぎない。
- 実際にどのように伝えていこうと考える中で、昨日南部介護サービス事業者協議会の役員方と話し合いの中で、介護職が魅力的に見えるのは何故か、魅力的な介護職とは何か、働いていてカッコイイ大人であるということを見せたいという話で、シンプルな話ではある。
- 介護職の一番の強みは AI に取って代わる事はないと言われていところをしっかりと伝えていきたいという話をし、伝えていくにあたって誰が話をしてても一定の成果が出るようなカリキュラム内容等、メニュー

ーを作成している状況である。

【委員】

- 3市町とも、素晴らしい取組をされていると感じている。この部会に当初から関わっていて若者をターゲットにと思っている中でこの様な取組をされ、いいなと感じた。
- 小中学校生に集中して講義を聞いてもらうのは難しく、講師はとても素晴らしい介護の話をしているが長時間講義を聞くができないので、ポイントを絞って話さないといけない。
- 今の人達は、安心して働ける職場である事を伝える事が大切である。AIに代わる仕事ではないので将来的に仕事がなくなるという安心感があるという事、多くの法人が毎年昇給していて、そんなに給料も安くない。独立してもそこそこの給料になり将来性のある仕事であることが伝わりにくい仕事だと思う。安心感があるというところは子供たちにとってはいいかなと思っている。
- 先生とか保護者に伝わるような資料があればと思う。介護を目指そうとする子供に対し、残念ながら保護者や先生からストップがかかるケースがあると聞く。そこを踏まえてフォローすると、目指してくれる子供たちも増えるのではないかなと思う。
- また、講師はどうしても特別養護老人ホームが多いので介護には様々なサービス種類がありそれぞれに特徴があるので、もっと活用されればと各市町の資料見て感じた。
- 講義内容として講演は退屈なので体験型が一番いいと思うが、実感の無い介護技術を教えてもしょうがないので、実生活に繋がるような介護技術を取り入れるといいと思う。興味を引くような、例えば酔っ払った友人を路上からボディメカニクスを使っての引き起こし方等、小中学校生には酔っぱらいは合わないが実生活に繋がるような介護技術を体験し、介護職員はそういったことが得意であると繋げるといいと思う
- 大津市のように、いくつかのメニューがあって選択しプランを立てるという事を県全体でし、各市の良いところを組み入れながらやれば、とてもいい取組になると感じた。

【委員】

- 市町によって温度差があると感じている。実際、私が所属する事業所は湖南市にあり、事業者協議会と連携し中学校へアプローチしているが、他の市町について、今日説明してもらった資料が作成されているとか、実際、資料はあるのか。

【事務局】

- 他市町は実施されていないと思う。
- 最初の資料の一覧表のように、他市町が何の事業をしているか全て把握しているつもりである。その資料には無くて実施していたとしても、市町が絡まず事業者団体が直接実施していると思う。そこは把握できていない。

【委員】

- 目的としては、このような事業を、部会を通じて他市町にも広げていくような取組になったらいいなというところ。
- 滋賀県内全域で同じ取組でなくても、市町でこのような取組をしていると、県としては、前進できると思った。
- 反対に、学校側の姿勢も、あまり話を聞いてもらえないケースが多いと感じていたが、この様な取組を進めることで、学校にも話を聞いてもらえるようになればいいと思っている。
- 先生が進路相談の時に「介護は辞めておきた方がいい、給料安い、しんどい大変、交代勤務、夜勤も

あるよ」と進路を塞いでしまうケースも実際にあると聞かし、保護者からもストップがかかる事も多い。

○我々、この事業に携わる親世代も多いと思うので我が子の進路に是非介護を勧められるような業界にしていければいいと感じた。

【委員】

○かなり前から小中学校生へのアプローチについて会員から要望があり、全て理解していないが、引っかかっていた部分が解消された。

○教育委員会がこちらの意見を聞き入れてくれない、動いてくれない事が突破できないため、次に進まない点、校長会での事業説明の流れがどこの地域でも可能なのかという点が、他の地域で展開する時に大事なところだと思う。

○学校の立場を理解し、先生方は非常に負担のある仕事をされている中で、極力負担を無くすという説明内容に納得した。その分のマンパワーをどこかが補って、やる気を持って動かないといけない。市町によって様々なかたちであると思うが、課題さえはつきりすれば十分な形が取れると思う。

○草津市が投げたボールをどう切り込んでいくというのは、皆さん頭にあって工夫されたところで非常に引っかかっていたところが解決した。

【委員】

○介護福祉士の養成をしていて、毎年小学校への車いす体験には学生を連れて行かせてもらっている。年齢が近い方がとつきやすい。小学校なのでそんなに難しい事は出来ないで、ビデオを見せたり、学生が実際使い方を見せたり教えたりしてくれている。とても楽しそうにしてくれている。学校の先生方も写真を撮ったり、福祉教育の中で毎年呼んでくださったり等がある。

○私たちが呼ばれるのは、社会福祉協議会からや、学校から直接依頼がある時もあるが、出来れば教育委員会が絡んでいければいいなと思っている。

○毎年2校～3校は直接校長先生から依頼があるので、若い現場の人が行かれるという事は大きいと思う。

○小中学校生に楽しくやっているところを見てもらうのが一番いいのではないかなと思う。

【委員】

○メディアとのコミュニケーションとか、広報について勉強しているものの立場からのコメントだが、興味を持ったのは、大津市の内部におけるコミュニケーションの活性化、職員間のコミュニケーション活性化や自らの業務の見直す機会に繋がっているとあったが、広報や発信は外向けに広く伝えるという事が、なんとなく前提に暗黙の了解にしていまいがちだが、うまく行く広報というのは、内面に向けて（インターナルという）、自分たちが他者に説明するという事を通じて自分たちの在り方を見直し改善していく効果の方が圧倒的に大きい。そういった意味で、この活動が上手く行く広報を「地」で行っているところに興味を持った。

○草津市が率直に言われたように教育委員会を巻き込んでいく事は非常に手間取る事である。それは日本における教育行政のあり方が、戦後見直されて独立性・自立性というものをきちっと担保するというのが、この日本の美風になっているので、命令形で動かすことは当然出来ないが、実際に苦労されて教育委員会を巻き込んでおられる様子を聞いて大変感銘を受けた。交渉術のノウハウの塊が生まれている気がする。

○質問になるが、学校によって積極的に取り組むところとそうでないところがあるとのことだが、高校レベルだと例えば進学校とか職業的に方向性がはっきりしてる高校や特性がはっきりしているから、受け止め方が変わって来る。中学校は、現段階で積極的に受け止めようとするところとそうで

ないところの違いが出てくる要因は何なのか、各市のオブザーバーに聞きたい。

【オブザーバー大津市】

- 感覚でしかお答えできないが、今までやって来て感じる場所は、目的の設定が明確になっているところ程、結果がうまくいく。
- 何となく時間があるから、学年で何かしようかという学校よりも、例えば石山中学校は2, 3クラスで小さめではあるが、職場体験に熱心に取り組まれている学校の方がうまくいく。昨年と今年も行ってきたが、2年生の職場体験で福祉施設に障害や保育含むが実習に行く前の学習として出前講座を使いたいという事で利用してもらった。
- 実際に生徒が福祉施設にて、高齢者を目の前にしてどのような言葉かけをしたらいいか、コミュニケーションの取り方がわからないところがある。そこを課題として何か出来ないかというオーダーがあった。
- 昨年から担当している特別養護老人ホームに相談したところ、介護職員が自ら高齢者に扮して認知症のおじいちゃんという設定で、先ほどご飯を食べたのに、またご飯を食べていないと言っているところを本番さながらに演じてくれ、生徒たちがどの様に対応するのか言葉かけするのかを、生徒たちが手を上げその方を相手に対し接し方や言葉かけを熱心に考えながらグループワークをする。これは、道具等を使用しない唯一のパターンの体験であった。
- 少し話が外れるが、大津市役所隣接の大津商業高校で、介護ツアーを企画しているグループがあり。夏休みに下見をするので、どこを見ればよいか等のポイントを自ら高齢者の気持ちになって体験してみたいというオーダーがあり、段差を車いすで上ったりする等の体験を行った。
- 目的が明確であるところが学校としては成果を得やすい。そういう目線で使用してくれるかどうかというところで温度差があると思われる。
- 大津市は南北に広く南の方の利用が多いのは口コミが大きいと思う。
- 学校が、最初の段階でどの様にオーダーしてくれるかにかかっている。ネタとして思いつくかどうかで若干の温度差が生まれているので、大津市としてはPRを頑張っていきたいと思っている。

【オブザーバー草津市】

- 大津市ほど歴史は無いが、当市は小学校に向けて出前講座に行くにあたり、南部介護サービス事業者連絡協議会と話をしている。彼らの言葉を借りて話をすると、職場体験を受け入れて何を伝えるか、築地委員が言われた学校側のスタンスの違いはあるのかの話だったと思うが、自分たちは職場体験で何を伝えたいと思っているのかを明確に出来ているか事業所サイドがおっしゃってて、この方たちは素敵だなと思いながら話を聞いていたが、伝えようとしないと伝わらない事なので、職場体験はキッカケだが漠然と何を伝えたいのか、伝える側がしっかりと持っておかないと、こちらの目的は達成しないと改めて思った。学校側もなぜ利用するか、双方が目的を明確化することが大事だと考えている。

【オブザーバー長浜市】

- 答えになるかわからないが、学校によって温度差がある要因は、年度当初、校長会で依頼をするが、申込がないので家庭科の先生を対象に電話で説明していたが、「あっ、そういう授業があるんですか？」と校長会で説明はするのだが、担当の先生まで行き渡っていない学校もある。
- 家庭科の先生も知ってくれれば興味を持ってくれることも多いのかなというところで、直接家庭科の先生に働きかけると変わってくると思っている。

【委員】

○それぞれ市町の事例からの報告で学校側の人の問題が大きいという事が見えてきたと思う。

○大津市を例で考えると、総合的な学習の時間をコーディネートされている主任格の先生に上手くアプローチすることが要かと思う。

○家庭科やキャリア教育でもいいが、おそらく総合的な学習の時間の主任格の先生は、その学校の中でも一番力量のある方を据えられている事が多いと思うので、そこにアプローチすることで、回り始めるのかなという印象を持った。

【事務局】

○皆様に質問

- ・各事業所から講師は出せる状況なのか
 - ・大津市社協のような事を他市町は核になって調整することは可能なのか
 - ・大津市は、社会貢献として講師料は無しで引き受けているが、その辺りはどうなのか
 - ・事前準備の手間はどれくらいあるのか
- 肌感覚でわかる範囲で教えてほしい。

【委員】

○先日、湖南市の方で中学校へ出前講座があり事業所協議会が中心に動いたが、どこかの法人や施設に任せる形ではなく、いくつかの法人から選抜して職員を出す形で実施している。謝礼は無かったと思う。

○講師を出してほしいという事であれば出せる事業所は多いと思うが。

【委員】

○こちらでも講師を出せると思う。

【委員】

○出せないとダメではないか。でないと、自分たちで魅力発信して行こう、職員増やして行こうというのに、人任せにしていると、業界的にはよくない。職員は出すべきだと思う。厳しいと思われるかもしれないが、どうだろうか。

【委員】

○講師について、先日、南部連絡協議会の方とこの事について話をして講師依頼の話もしていた。

○講師の選別は、正直難しいと思う。介護の講師ができる人はたくさんいる。車いすの体験も良いが、生徒達は実生活に感じる時が無いから、体験したところで仕事に繋がらないと思う。

○実際、自分たちのように毎日車いすに見て触れているから、イメージや生活の中の必要性の一つと感じられるが、生徒達が見てもあまり意味がない。もう少し、実生活に繋がるようなもの SNS を通じて、介護の魅力を発信して行こうと言ったと思う。

○インスタグラムやTIKTOKの中で、毎日車いすを見ていけば車いすに対するイメージが変わってくる。

○そういうところで、介護の講師が出来る方が、介護介護といってしまうと生徒たちにとっては退屈なだけになるので、その辺りを選別してもらえればたくさんおられるのかなと思う。

○市町にこだわらず、いい講師の方に滋賀県下で行ってもらうのが良いと思う。

○費用は、無料でも行ってくれると思う。

【委員】

- 私も同じように感じている。少し気になるところが実際やった後の生徒たちのアンケート結果があつて、項目が正解かどうかは別として、どのような反応があつたのかがその後の継続にも繋がると思う。
- 私たちが聞くと障害の話をされている先生の内容の濃い話は、福祉職場の人間から言わせるとすごく良い話をされていたが、実際は、生徒達はどこまで受け止めてくれるのか、目的で講師をして結果をどうつなげるのかは大事である。単発でイマイチだったで終わってしまわないようにしないといけない。
- 講師のキャラクターも考えないといけない。おもしろ、おかしければいいという訳ではないが。

【事務局】

- 市町がこれから取り組む時に、介護業界の誰に声を掛ければ中核になってもえられるのか。大津市は社協、長浜市は法人、草津市は介護サービス事業者連合会だが、進めやすい等、まずここに声を掛けてもらったらというところはどこなのか。

【委員】

- 市町によって変わるが、この部会の2年ほど前に小学校・中学校と連携するという会議を1,2回したと思うが、その時には事業者協議会を窓口にしていくのが良いのかなという感じで終わった。どこが良いかはわからないが。

【事務局】

- 取っ掛かりは、各地域の事業者協議会という事で。

【オブザーバー草津市】

- 先ほど、講師の報酬に関しては無償という言葉が普通に出ていて、それが続く形になるのかあやしいと思っていて、今、県が市町に向けて介護福祉人材確保緊急支援事業費補助金を出していて、今年度元々、経営者・会社向け研修で計画をあげていたが変更して、小中学校とかに向けた出前講座の委託料として事業所に講師謝礼を計上することを相談している。
- 市町によって、事業所が無償で働かないと、となると気が重い話になると思うので、委託料として事業所に講師謝礼を払える形がある事を、実績等含め、市町に周知していただく事によって、検討していただきたい。

【事務局】

- 県の補助金を使って、出前講座にかかる謝礼や旅費を払っていただくのは可能である。
- 補助金の交付額の中で、回していただけたらと思う。

【委員】

- 今、意見を伺っていてわかったことは、事業者側が何かを伝えようとした時に伝わるようにしつらえるとか、それから中身を作るとかが大事で、いわゆる教材開発とか、それからそれを伝えることを専門にする人材の開発、これをしていく必要がおそらく今後ほとんどの学校で定常的に行われるということになるのであれば、そういう人材の開発が必要となるだろう。
- そういう事を専門とする人が登場してくる。介護の現場を知ってるし学校の事情も分かって伝える力もあるそういう人物。多くの人数は生まれてこないが全国で何十人、百何人、それくらいの数の専門家たちが、その仕事で飯を食う事も想定できるかなと思った。
- 介護の人材を獲得したいから自分たちで負担すべきは当然あっているが、負担するのを今働いている職員等は無償で時間を割く形でなく、最後に出た、どこがコーディネートするのかという機能を

育てていくためにも業界でお金を出し合って仕組みを作って行くことをしていけないといけないと思った。

- お金を活かして使う事を是非やっていただきたいと思うので、補助金は最初の歯車を回すイグニッションになるわけで、継続的にやって行こうとするのであれば業界がしっかりと責任をもってお金を負担していく必要があると思った。

【オブザーバー大津市】

- 大津市の事例を紹介すると、当市も草津市と同じように委託でできないか、当初検討していたが引き受けてくれるところが見つからないのが現状で、社会福祉協議会の福祉学習というところで依頼があれば出前講座を実施されていたというノウハウがあったので、話をしたところできそうと見えてきた。
- 毎年毎年、委託の話をしていたが、地域貢献でしたいと社会福祉協議会の意向が強くて、現在の無償というかたちになった。

【委員】

- 先ほどの話にもあったように、介護の人間が講師として出向くと、介護を難しく話をできる人はたくさんいると思うが、酔いつぶれた友達を起こすような介護のような語り口が出来る人は少ないと思う。それを踏まえると、介護をオモシロおかしく楽しく語れる技術を持っているような講師の養成研修を作って行けるといいのかもと感じた。

4. 議題（２）令和6年度介護のしごと魅力発信事業について

※資料４により事務局からこれまでの経緯を説明

※資料４により補助事業の事務局介護福祉士会から今年度事業の進捗状況等の報告

【委員】

- 事務局できっちりマネジメントされている事がわかった。楽しみにしている。

【委員】

- 案の段階でこれから委託事業者と進めて行くかたちになると思う。また具体的な取組等はこれから決まっていくところになると思うのでご協力をお願いしたい。
- 大津市でも「おおつ介護フェスタ」を開催しておられて、しがけあプロジェクトと連携し相乗効果を生み出していければいいかなと考えている。
- ※資料４により大津市から「おおつ介護フェスタ」の情報提供

【委員】

- 私も、昨年度国際介護・人材センターでブースを出店した。外国人介護人材のアピールもしていきかったので、世界の国旗をブースに貼り出し、裏にクイズがあり、参加してもらいオヤツをプレゼントし、外国人人材も介護の現場で頑張っているよとアピールをさせていただいた。
- 今回も外国人介護人材がボランティアに来てくれるが、こんな方達が介護現場で働いているみたいなイメージが市民の方達にイメージを持ってもらえればいいと思っている。

【委員】

- 昨年、私も会場を見させていただき、たくさんの方が溢れていて、見た目「介護」は前面に出てなくて賑わっていた。

○開催場所も屋外で明るく雰囲気もよく、すごく良い事をされていると感じた。

【委員】

○人材センターも大津市から話をいただき相談ブースという事で出店した。

○当初、会場に入ってオープンスペースで天気も良く、子どもたちもいっぱい、まさかこんなところに相談来る人いるかなと思っていたが、数名が相談に来てくださったので、その方は後々に繋がらなかったが、うちのブースに来られた方が言われていたのが、たまたま楽しそうだったので来てウロウロしていたら介護の話が聞けるんだと座りに来てくれた方が大半であった。

○あのような場で、無料の職業紹介場がブースを出すという事は、ある一定の価値があったと思った。

○法人ブースもたくさん出店されていて、独自で子供向けのゲームをされていたり職員のご家族が作られたものを持ってこられていたり、色々工夫のあるブースが出店されていたので楽しく参加していた方も入場して下さった方も、双方楽しまれていた印象であった。

【事務局】

○昨年度は大津市が先にされ次に県だったが、今年は県が先で大津市が後になる。

○昨年度はしがけあアンバサダーのポスターを貼ってもらったりしていたので、今年も新 3K のポスターやクリアファイルの余裕があれば配布してもらおうとか、アンバサダーの新メンバーを募集し、間に合えばポスターを貼っていただければと思う。

○県が先になるので、少し場所が大津市から離れているので効果はわからないが、チラシやポスターを介護福祉士会が事務局として、大津市とも連携して使えるものはお互い使いあって宣伝しあっていければと思っているので、よろしくお願いしたい。

以 上